

令和7年度 桜江小学校学校評価 報告書

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	改善の方向性	運営協議会
学び合い 高夢めに合うか・子・ふるさとで学び	学校活用図書館の	図書館を活用した単元を学期に1回以上必ず実施する。	・学年ごとに国語科等の教科や総合的な学習(生活科)で、図書館を活用した調べ学習の単元を行ったか。その様子を図書館だより等で伝えたか。	図書館を活用した授業はどの学年も行っているが、高学年になるにつれてネットでの調べ学習が増え、活用があまりできていない現状がある。図書館担当の方で活用できる単元を声かけしていく必要がある。担任自身も意識する。	・楽しんで読書を行っている児童の割合や、わが子が進んで読書をしているという保護者の割合がやや低い。また、やらされているという意識が児童の中にある可能性がある。主体的な取組に向かうような取組が必要。
	多読チャレンジの取組の充実と選定図書による良書との出会い	・図書委員会と連携し、読書に取り組む環境づくりをし、目標冊数を定めて学期ごとにより返ることで、進んで読書を楽しむ児童を育てることができたか。 ・選定図書で読書の幅を広げることができたか。	学校では読書週間等を設けて本を読む環境づくりはしているつもりだが、家庭での読書にまでつなげていなかった。来年度はメディアコントロールウィークに合わせて、「家読」の取り組みも検討したい。		
	基礎基本の定着	継続したチャレンジタイムの実施	・毎週水曜日の朝自習の時間に設定し、各学年の苦手分野に応じた教材に取り組むことで学習内容を補充・発展させることができたか。	年度後半からスキルタイムと時間が混乱してしまい、年度当初に考えていた内容が学校で統一して行えなかったように思う。来年度はスキルタイムとチャレンジタイムを合わせて、ICT活用と基礎学力定着のための内容をきちんと決めて取り組みたい。	
	書き取り・計算会の実施	・家勉強週間と関連させながら、月1回の書き取り・計算会を設定し、繰り返し練習することで、児童の基礎的な力を身につけることができたか。	家勉強週間期間中に自学に取り組めるようなアドバイスやチェックを担任がきちんと行う。カードを定期的に提出するようにする。結果を職員で共有できる仕組みをつくる。		主体的な学習に向かっていく必要があることを確認。
	支援員との連携	・支援員と担任が記録簿により情報交換を行ったり、話し合いの時間を持ったりして、連携を密にすることで、児童のニーズに合った支援を行うことができたか。	時間割の変更を早めに知らせることを徹底し、児童のサポートに穴が開かないようにする。個別の支援に対応する人員と時間が不足しているため、学級集団内で行える支援をしっかりと考えておく。		
	学習を生かす環境づくり	計画的な学校行事・集会活動の実施(時期・時間の取り方の工夫)	・行事の時期や内容の見直しをし、児童や保護者の負担感を減らすことができたか。 ・授業時数を確保することができたか。	前期と後期で時程が変わったため負担感が大きかったように思う。休み時間が短くなったことで、子ども同士のトラブルの聞き取りや対応が授業に影響してしまうこともある。来年度は微調整し、教員にも子どもにも負担にならない、ゆとりのある時程にしたい。	運営協議会、CSコーディネーターなど活用しながら、今行っているふるさと教育を充実させていく必要があることを確認。
	カリキュラムマネジメントを行い、ふるさと教育のより一層の充実を図る。	・行事や他教科の単元と総合的な学習の時間・生活科(ふるさと教育)をつなげた単元構成を行い、効果的に実施することができたか。 ・キャリアパスポートを活用し、行事や学習の振り返りを行うことができたか。	地域の方も協力的でふるさと学習は十分に行っている。今後はコミスクの活用を考え、地域との連携をより深めていきたい。		
	校内研究の推進	計画的な研究授業と日々の授業改善	・計画的に研究授業と事前・事後研究を行ったか。 ・研究の手だてを意識して日々の授業を行うことで、学習意欲を向上させることができたか。	・年度初めの動き出しが遅くなり、計画的に進めることができなかった。研究授業については全職員で授業を振り返ることができた。継続していく。	現在の取組を継続してほしい。
	自分で考え、表現する児童の育成	・自分なりの課題をもち、その解決に向けて取り組めるような学習の場を設定できたか。 ・聞き手を意識し、表現方法を工夫して自分の考えを伝える力を伸ばすことができたか。	・児童が表現する手段としてICTの活用方法について研究を進めた。引き続き全職員で研修と実践を積んで、どの教員も一定の活用ができるようにする。		

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	改善の方向性	運営協議会
学び合い 高めに合う かう・子・子 ふるさとで 学び	学力向上の取組	家庭週間の設定と家勉カードの活用	・家勉カードを通じて児童の取組を把握し評価することで、家庭学習への意欲を高めることができたか。 ・学級だよりや保護者からのコメント欄の活用により、家庭と連携した取組にすることができたか。	・家勉ウィーク取り組み方について、再検討し、学級や学校の実態に合った取り組み方に整える。また、取り組み方について全職員で共有し、学級によって差が出ないように、徹底して丁寧に取り組む。	自主学習ノートの活用などで児童の肯定的な評価の割合が低くなっており、主体的な学習が展開されるよう工夫していく必要がある。
	家庭学習の充実	・「家庭学習の手引き」を示したり、学年に応じた自主学習の指導を行うことで、家庭学習の充実が図れたか。 ・学年部や全体で自主学習の仕方について情報交換をし、よりよい指導方法について学校全体で考えることができたか。	・家庭学習の手引きを有効に活用できていなかった。手引きの見直しをすることと家勉ウィークと家庭学習の手引きを関連させた取り組みを考えたい。		
	ICTの活用	指導者の活用能力の向上	・実際の授業に使えるような実践的な校内研修を行い、指導者のICT活用への意欲や能力を高めることができたか。	・夏休みを利用した校内研修を行うことができたが、活用への意欲や能力を高めることにはつながらなかった。 ・研究授業が2学期末から実施されるようになったので、早い時期に研究授業を実施し、ICT活用への意欲を高めることにつなげたい。	・学習においてICTの活用に努めているが、児童の主体的な学習にまだつながっているとはいえず、今後取組を工夫していく必要がある。 ・児童のICT活用のスキルは上達しており、さらに活用効率が高まるよう取組を進めていく必要がある。
		校内ICT情報活用	・校内のICT情報活用目標リストをつくり、学年に応じた指導を行うことができたか。	・目標リストを参考に、学年に応じた指導を引き続き行う。	
〇認め合い ひびき合う 子	人権・同和教育の推進	自他を大切にできる心情・態度の育成	・相手の立場に立って考える機会をもつことで、自分や仲間を大切にできる心情や態度を育てることができたか。	・ハッピーツリーや友達同士の名前呼び方、気持ちの良いあいさつや言葉遣いなど、学校生活全体を通して、自分も仲間も大切にできる指導を日々行うことができた。	・児童、保護者、教職員の間で人権意識の差が見られるため、そのような状況を教職員の間で共有し、人権教育を進めていく必要がある。
		人権集会の開催	・人権集会を開き、児童の人権意識の高揚を図ることができたか。	・人権集会を通して、楽しい時間を過ごしながら、友達の大切さについて考えることができた。	
	さくらえつ子の充実	定期的な会の開催	・月1回、定期的に桜江つ子を語る会を開いて児童理解に努め、日頃の関わりに活かすことができたか。	・現状維持。「いいこみつけ」も加え、更に児童理解に努める。	「自分にはよいところがある。」など大半の子は肯定的な回答をしているが、大半がいいからよいという訳ではなく、少数の困っている児童を大切にしていく必要がある。
		教育相談の充実	・「なかよしアンケート」「きいてよカード」をもとに、毎学期計画的に教育相談を実施したか。	・現状維持。年度当初の計画通りに進める。	
	生活意識目標の	委員会活動と連携した生活目標	・実態に合わせた生活目標を設定し、委員会と連携した取り組みを行うことができたか。	・現状維持。生活委員会とタイアップし、生活目標を決める。	・清掃に対する児童の意識はとて高く、今後も取組を継続してもらいたい。 ・委員会活動での異学年による声かけなど、学年を超えた交流もよい影響をもたらしている。
		生活目標の意識化	・生活目標達成に向けた取組や日常生活での声かけを行うことで、児童に生活目標の意識をもたせることができたか。	・現状維持。生活委員会を中心に呼びかけをする。	
	日頃を鍛える日常指	基本的な行動に係る声かけ	・正しい姿勢、礼、整列、歩行、返事等、日常の基本的な行動に係る声かけを行い、児童の生活を向上させることができたか。	・現状維持。生活目標の目当てとし、学校全体で取り組んだ。	
		清掃指導の共通理解	・正しい清掃の仕方を身に付けるための取組を行うことで、進んで清掃活動に取り組む児童を育てることができたか。	・現状維持。担当教職員が、一緒に清掃をする。	

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	改善の方向性	運営協議会	
きたえ合い すこやかな子	体づくり	週1回の朝マラソンの実施	・健康委員会と連携し、みんなで日本一周を目標とし、全校で朝マラソンに取り組むことができたか。	・取り組めた。今年度から、年度で達成感を得られるように、中国地方1周にした。	朝マラソンやなわとび、屋内でのドッジボール外遊びなど、児童の体力積極的に行われており、体力テストでも高い数値が表れていることから、今後も活動を継続してほしいという意見が聞かれた。	
		教科体育での運動量の確保	・児童の運動量を十分に確保した体育科の授業を計画、実施したか。	・来年度も同じく運動量の確保を意識した学習計画を立てていきたい。		
		マラソン記録会の開催	・朝マラソンや体育での取組を活かしてマラソン記録会を実施したか。	・今年度は2回実施した。記録が伸びていることが自覚できたのではないかと思う。		
		なわとび集会の開催	・朝なわとびの取組に合わせ、児童の意欲向上を図ったなわとび集会を開催したか。	・開催した。もっと健康委員主体で行っても良いと思う。		
		健康委員会の活動の充実・発展	・健康委員会と連携し、体力調査の結果などから児童の課題に合った運動を広め、実施したか。	・健康委員会の活動として、児童が主体的に行える方法を考えていきたい。		
		学校保健委員会の開催	・外部機関と連携を図り、運動や健康に関する学校保健委員会を開催したか。	・開催はしたが、認知度が低かったので、教職員への周知・呼びかけを行う。		
	生活習慣の確立に向けて	メディアとの関わりに関する取組の継続	・長期休業明けのメディアコントロールウィークを継続して実施できたか ・家庭全体で取り組もうとする意識を高めるため、中学校と連携することができたか。	・年度当初、中学校の担当者と打ち合わせをし、計画したとおり実施できた。 ・取組の充実を目指し、実態調査を行うため、小中合同のメディアに関するアンケートを作成中である。		・ICT活用とメディアコントロールとの関係を考えなければならない。 ・小中の連携を進めていくことが必要。
		性に関する指導の充実	・年間指導計画に基づき、必要に応じて外部講師を活用するなど各学級の実態に応じた指導を行うことができたか。 ・家庭に対し、性に関する指導への理解を深めてもらうため、授業公開やたより等を発行したか。	・計画通り実施できている。 ・年間指導計画をより早く示す。		
		身体測定に合わせた保健指導の実施	・健康診断の結果やメディアコントロールの様子等、児童の健康課題に合わせ、課題解決に向けた指導を行ったか。	・計画通り、身体測定後のミニ保健指導を実施した。 ・児童の健康課題に関する指導を行ったため、健康診断結果やメディアコントロールに関する指導は行っていない。 ・保健指導の内容について、事前にねらいを教職員へ周知する。		
		健康委員会の活動の充実と発展	・健康委員会と連携し、健康診断の結果やメディアコントロールの様子等、児童の健康課題にそった取組ができたか。	・活動内容が体育面に偏っている。体育と保健と偏りが無いよう活動内容を見直す。		

めざす児童像	目標	達成のための具体的方策	評価指標	改善の方向性	運営協議会
きたえ合いですこやかな子	食育の充実	自分で決めた量を食べること	・自分が食べられそうな量を考え、残さず食べようとしたか。	・年度途中で残食ゼロウィークが無くなったことで、残食が増えた。残食を減らせる新たな取り組みを考えたい。	学級全体で残食をしないという従来の指導方針から、自分自身で食べる量(目標)を決め、楽しくその完食をめざすという方針に移行しているが、以前よりは増えたものの桜江給食センターの残食は少なく継続的に取り組んでもらいたい。
		めあてを意識	・給食委員会が提示する給食時間の目標(2ヶ月毎)をもとに、各学級で給食時間の重点めあてを設定し、めあてを意識した取組と振り返りをすることができたか。	・めあての設定のお願い、めあての掲示のみで終わっていた。達成できたかなどの振り返りも行いたい。	
		給食委員会の活動の充実と発展	・給食委員会で箸の使い方や食事のマナー、今月の歌に合わせた動画を作成し、日常的な給食指導に生かすことができたか。 ・給食センターの調理員さんや生産者さんへのインタビューを実施し、全校集会で発表し、食べ物や作ってくださる方々への感謝の思いを全校に伝えることができたか。	・実施できていない。来年度は可能な範囲で実施していきたい。	
すべての子どもたちの学びを支える学校	防災・防犯意識の高揚	学期ごとの避難訓練実施	・諸災害を想定した避難訓練を実施し、児童の防災意識を高め、避難の仕方を理解させることができたか。	年度当初に火災を想定した避難訓練を行い、避難経路をしっかりと確認し、2学期に地震想定など様々な災害を想定し、現実の災害を意識できるように訓練の場を設定する必要がある。	災害の種類によって避難の経路や行動が異なってくるため、日ごろから避難の仕方について意識し、その定着を図ることが必要であり、間隔をあけることなく継続的に命を大切にしたい取組を進めていく必要がある。
		職員の防犯に係る意識の向上	・防犯訓練や防犯に係る取組を実施し、職員の防犯意識を高めることができたか。	今年度、不審者の侵入などを想定した訓練を実施していない。警察など、関係機関と連携しながら防犯意識を高めていく必要がある。	
	働き方改革	教職員の業務負担軽減の推進	・スクールサポートスタッフの活用、業務内容の整理、デスクネットの活用などを通して、教職員の業務負担が軽減されたか。	引き続き、SSSやデスクネットの回覧板等、効果的に活用し業務負担の軽減につなげたい。(来年度はSSSの時間が削減されるため、より計画的な活用計画が必要)	現在の取組を継続していく。
		働き方改革の意義の見直し	・働き方改革の目的や在り方を見直し、職員が働きやすい環境づくりを改めて職員全員で進めていくことができたか。	定時退庁日を設けるなど、具体的な取組を行うことで働く環境の改善を図っていく。	
	地域との連携	HPの更新による情報発信	・ホームページを更新することで、積極的に情報を発信したか。	毎月の学校だよりをホームページにアップしている。各行事については学校だよりと学級だよりで発信しているため、ホームページでの随時更新は行わない。	学校だよりを発行するだけでなく、コミセンごとに発行しているたよりを学校の中でも、回覧等することにより、地域の行事や実情と学校の活動を連携させていったほうがよい。
		地域との連携を強める情報共有	・校外学習やふるさと学習の際に、地域の方とねらいを共有することで、学習効果を高めたり、地域貢献につなげたりすることができたか。	引き続き、地域の方へ学習のねらい等、発信していくとともに、学校運営協議会でも連携を強化していく。	
安全管理	優先順位をつけた修繕活動	・毎月の安全点検の結果をもとに、計画的に修繕活動を行うことで、安全管理に努めることができたか。	安全点検であがった修繕が必要な箇所や修繕状況を共有するとともに点検の項目を見直す。	保護者の安全管理に対する評価が非常に高い数値を示しているため、安全な教育環境づくりをめざしてほしい。	
	子ども修繕アンケートの実施	・年1回、子ども修繕アンケートを実施し、児童の安全を保障するとともに、児童の安全への意識を高めることができたか。	アンケートを早い時期に行い、アンケートが自分たちの安全に反映していることに気づけるようにする。		
予教算育	教育予算の適切な執行	・本年度の教育計画を踏まえた効果的な予算計画を立て、適切に執行を行っている。	年度当初に全体の予算計画を全職員に周知し、予算執行を進めてきた。年度末に、適切かつ効果的な執行であったかを予算委員会等を設け検証し、次年度以降、改善を図る。	予算執行に係る特別な言及はなし。	